

インターバンクの声（2016年12月21日）

日銀の金融政策決定会合は長期金利目標をゼロ%程度に維持するなど現行の政策を維持、一部で予想された緩和縮小につながる材料も提供されず、ロンドン勢が参入してくる頃までは円売りが続いた。

ただ、ロンドン市場の後半になると、それまで続いていた米金利の上昇も止まり、弱いながらも抵抗線になると思われた 118 円台中盤にすら届いていなかったこともあり、ニューヨーク市場の中盤からは 117 円 60 銭台まで円が買い戻された。

クリスマス休暇前で相場が薄くなっていることもあるが、前日のニューヨーク市場で付けた 116 円台中盤から昨日の 118 円台前半までと取引レンジが広がりやすくなっており、うっかりポジションを長く抱えてしまうと思わぬ損失が出てしまう。

とりあえず昨日は 119 円台乗せが見送られたドル円だが、ユーロは一時 2003 年 1 月以来となる 1.03ドル台中盤まで売られる場面があり、相場がますます薄くなる年末までに 1.00ドルを割り込むかどうか見ものだ。クリスマス休日絡みで休場になる市場が増える 26 日前後に 1.00ドルに迫るようだと、厄介な相場になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。